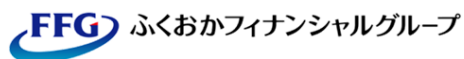


スモールミーティング FFGの企業価値向上に向けて

2025年7月28日

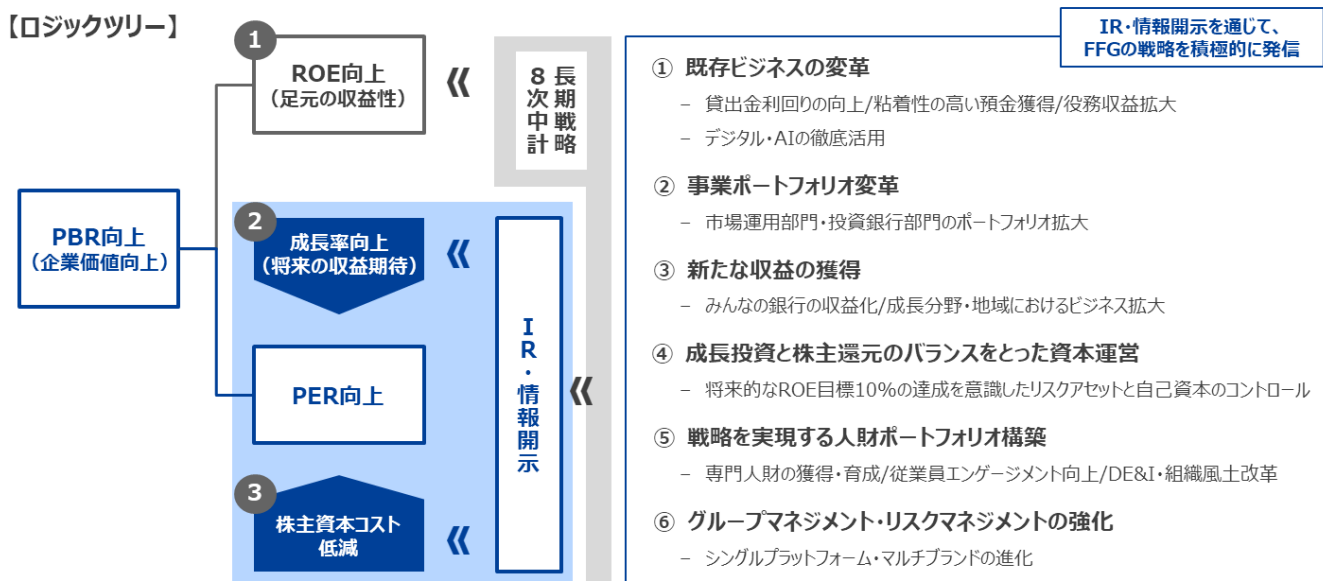


- ふくおかフィナンシャルグループ社長の五島です。
- お忙しいなか、スモールミーティングにご参加いただき、ありがとうございます。
- 本日は、投資家の皆さまから様々なご意見を頂戴し、今後の経営に反映させていければと考えています。
- 質疑応答をメインとさせていただきますが、冒頭10分ほどお時間をいただき、IR活動に関して、少しお話をさせていただきます。

IR活動を通じたPERの向上

- 長期戦略・8次中計の施策実行によるROEの引き上げとともに、**積極的なIRと情報開示**により、**PERの向上**を目指す

【ロジックツリー】



- スライドにFFGのPBR向上に対する考え方を示しています。
- 地方銀行の株価は、日銀の政策変更などを受け、ここ数年上昇トレンドで推移しています。
- FFGの株価についても上昇してはいますが、依然としてPBRは1倍を下回っており、株価水準は低位です。
- 従前より、ご説明しているとおりですが、FFGはPBR向上に向けて、①「ROEの向上」、②「成長率＝将来の収益期待の向上」、③「株主資本コストの低減」に取り組めます。
- まずは、自社の戦略でコントロール可能なROEについて、スライド右側に記載の長期戦略および8次中計施策を着実に実行することで、2027年度迄にROE 9%、将来的には10%まで引き上げていきます。
- 一方で、②「成長率の向上」、③「株主資本コストの低減」については、FFGの現状と今後の成長性を投資家の皆さまにご理解いただくことを通じて、改善していくものと理解しています。
- 積極的なIR活動と情報開示を通じて、FFGに対する将来の期待を高めるとともに、投資家の皆さまから見たリスク要因を軽減していくことで、PERを向上させ、企業価値、PBRを向上させたいと考えています。

2025年度のIRスケジュール

◆ 各イベントのプレゼン資料・トークスクリプト・主な質疑応答については、実施後速やかに開示予定（英文含む）

時期	イベント（予定）
5月下旬	ラージミーティング【2024年度決算】
7月上旬	欧州ロードショー
7月下旬	スモールミーティング 本日
7月下旬	統合報告書の発刊
8月上旬	第一四半期決算説明会
9月上旬	IRDay
10月上旬	北米ロードショー
10月下旬	個人投資家向け会社説明会【福岡・熊本・長崎】
11月下旬	ラージミーティング【2025年度中間決算】
1月上旬	スモールミーティング
2月上旬	第三四半期決算説明会
3月上旬	IRDay

〔各IRイベントの内容〕

ラージMTG	- CEOより、決算、業績予想、中長期的な経営戦略についてご説明
スモールMTG	- CEOと投資家の皆さまとのQAセッション - 投資家の皆さまより、幅広くご意見を頂戴し、今後の経営に反映させていただく
四半期説明会	- 経営企画部長より、1Q・3Q決算の進捗、足元のトピックスについてご説明
IRDay	- 担当役員より、投資家の皆さまの関心が高いテーマ（例：みんなの銀行など）について詳細をご説明

〔IR体制の強化〕

- ✓ IR担当者を+ 2名増員（担当者4名）
- ✓ 投資家の皆さまとのコミュニケーションの質・量の増加に向けて、東京にもIR拠点を設置

- スライドに今年度のIRのスケジュールを記載しています。
- PERの向上に向けて、IR・情報開示の充実に取り組みます。
- 今年度は、ラージミーティングに加えて、「スモールミーティング」と「IRDay」をそれぞれ年2回実施します。
- 「スモールミーティング」は、投資家の皆さまが疑問に感じているポイントに私自身がお答えするとともに、投資家の皆さまから幅広くご意見を頂戴する機会に出来ればと考えます。
- 「IRDay」については、投資家の皆さまの関心が高いテーマ、現状であれば、みんなの銀行などについて、担当役員より詳細をご説明させていただき、FFGへのご理解を深めていただく機会と位置付けます。
- あわせて、個人投資家、海外投資家向けのIR活動も充実させていきます。
- また、情報開示充実の観点から、各イベントのプレゼンテーション資料やトークスクリプト、質疑応答の内容については、英文を含めて速やかに開示する予定です。
- 統合報告書についても、今年度は、7/31にホームページに開示しますので、是非ご覧ください。
- IRや情報開示をより充実させていくために、体制も強化します。
- IRの担当者の増員とあわせて、東京にもIR拠点を設けて皆さまとのコミュニケーションの質・量の増加に取り組みます。

欧州ロードショーの状況 (2025/7月上旬に実施)

投資家の関心事項	FFGからお伝えしたポイント
①日本の金融政策	- 次回利上げは、 賃金上昇を見極めた上で年明け以降 の可能性が高いと考えている。一方で、 消費の増加や米国関税政策の影響 が好転する状況になれば、 前倒しになる可能性 もある
②九州経済の成長	- 九州におけるTSMC進出の経済効果は23兆円。九州には FFGをメインとする企業が約4万社 あり、この機会をFFGのビジネス拡大につなげていく。そのために、Q-Bassなど、地銀連携の取組みを主導している
③長期的な成長戦略	- デジタル・AI活用による 商業銀行部門 の成長とともに、収益性の高い 投資銀行部門・市場運用部門 のポートフォリオを拡大する。あわせて、 インオーガニック（デジタル・M&A）成長 にも取り組むことで、長期戦略の目標である ROE10% を達成させ、企業価値を向上させる
④8次中計の計数	- 政策金利の見通しや信用コスト、みんなの銀行 等については 保守的 に織り込んだ蓋然性の高い計画
⑤みんなの銀行の黒字化	- 大規模な顧客基盤を持つパートナーとの協業 により、顧客数を飛躍的に伸ばし、 FY27の黒字化 を目指す - パートナー企業のニーズに合わせて、機能毎にサービスを提供できる点が競合との差別化要素 - みんなの銀行のシステムは、 三菱UFJ銀行のデジタルバンクのシステムに採用 されている
⑥インオーガニック戦略	- 具体的な案件はないが、 地銀との経営統合 に関しては、九州内での統合の方がシナジーが大きいと考えている。また、 非金融を含めて異業種とのアライアンス も検討していく
⑦円債の投資方針	- 円債のデュレーションを約2年まで短縮 し、今後の金利上昇への耐性を強化。足元、金利の先高感があるため、長い年限の投資は控えている状況。現時点では、大規模なロスカットは想定していない
⑧株主還元方針	- 利益成長にともなう 配当の維持・増配を基本 としており、設立以来、着実に配当額を増加させてきた - 足元の自己資本水準を踏まえて、 現状は健全性の維持と将来への成長投資を優先 しているが、 自己株式取得 の選択肢を排除している訳ではなく、利益が上振れした場合等には 都度検討 していく

4

- こちらは、先日実施した、欧州ロードショーにおける投資家の関心事項と、私からお伝えしたポイントをまとめたものです。
- 本日のディスカッションの材料として、簡単に共有させていただきます。

【①日本の金融政策、②九州経済の成長期待】

- ミーティングの中では、まず、マクロ環境、日銀の利上げや九州経済の成長の見通しについて質問をいただきました。
- 日銀の利上げは、賃金の上昇を見極めた上で、年明け以降の判断の可能性が高い一方で、米国関税政策の交渉状況や物価情勢によっては、前倒しになる可能性もあると考えていることを伝えました。
- 九州経済については、TSMC進出による経済波及効果が大きく、その九州の中で最も多いメインバンク先数を持つFFGは、相対的にビジネスチャンスが大きいことをアピールしています。

【③長期戦略】

- マクロ環境のディスカッションの後、FFGの成長戦略へとテーマが移り、特に、中長期的な成長戦略に関心を持っていただきました。
- デジタル・AI活用による商業銀行部門の成長とともに、投資銀行部門の強化やインオーガニック戦略を通じて、ROE10%を達成させていくことを説明しています。

【④ 8 次中計の計数】

- その上で、第 8 次中計最終年度、2027年度の連結当期純利益1,000億円の計画については、政策金利の見通しや信用コストを保守的に織り込んでおり、一定のアップサイドがあることを説明しました。

【⑤みんなの銀行】

- みんなの銀行については、現状赤字ですが、今後、国内に大規模な顧客基盤を持つパートナーとの協業により、顧客数を飛躍的に増加させ、2027年度の黒字化を計画している旨を説明しました。
- みんなの銀行のシステムが、三菱UFJ銀行に採用された点については、欧州の投資家からも高い評価をいただきました。

【⑥インオーガニック戦略】

- 金利のある世界へと変化する中で、投資家の皆さまの地銀再編への関心は高く、今後の統合戦略についても多く質問を受けました。
- 現状、具体的な案件はないが、不確実性の高まりの中、企業体力を高めるための統合や非金融を含めて異業種とのアライアンスについても検討している旨を伝えています。

【⑦円債の投資方針】

- 市場運用部門に関しては、金利上昇局面における円債の投資方針への関心が高く、多くの質問をいただきました。
- 円債のデュレーションは2年まで短縮しており、今後の金利上昇への耐性を強化していること。現状、大きなロスカットを実施する想定はなく、通常のオペレーションの中で、ポートフォリオの入れ替えを行っていくことを伝えています。

【⑧株主還元方針】

- 最後に、株主還元について。
- 日銀の利上げや九州経済の成長、みんなの銀行のビジネス拡大、地銀再編等については、ポジティブな評価をいただきましたが、資本政策・株主還元については、依然として投資家の期待とF F Gの現状にギャップがあると改めて認識しました。
- このギャップを埋めるために、株主還元については、成長投資と利益成長、それに伴う配当の維持・増配を基本に考えており、これまで、この方針どおり、増配を続けてきたこと。
- また、自己株式の取得については、成長投資と利益成長、それに伴う増配を基本方針としつつ、自己株式取得の選択肢を排除している訳ではなく、利益が上振れた際などには、都度検討していく旨を説明し、投資家の皆さまの期待を意識しながら資本運営を行っていくことを説明しています。
- 今後も定期的に海外の投資家ともコミュニケーションをとり、FFGへの理解を深めていただくとともに、投資家からいただいた意見を経営に反映させていきたいと考えています。
- 私からの説明は以上です。